

## 第 44 回電子情報化委員会 議事録 (案)

日時：2010 年 11 月 29 日 (月) 14:00～17:00

場所：JCI 会議室 12F

出席者：中村委員長、三木幹事、甲斐、田嶋、八十島の各委員  
(事務局) 五十嵐専務理事、井上、戸口

### 資料

44-0：電子情報化委員会 (第 44 回) 議事次第

44-1：第 43 回電子情報化委員会議事録 (案)

44-2：JCI 発行情 (会誌, 工学論文集, 年次論文集, ACT) 電子公開に向けての意見交換会議事録 (案)、他配付資料

44-3-1：電子情報化意見交換会 (2010 年 11 月 15 日) 参考資料

44-3-2：Journal@rchive とは (説明 HP 印刷版)

44-3-3：J-STAGE/ Journal@rchive と NI-ELS の重複整理について

44-4：JCI コンテンツのデジタルアーカイブ化について (H21/8/4 資料再掲載)

44-5：「コンクリート工学論文集」の会員専用 HP 公開に向けて

44-6：委員会報告書の公開に向けて－2.委員会報告書等の公開方法－

### 議事

#### 1. 前回委員会議事録 (案) の確認 (三木幹事、資料 44-1)

- ・ 第 43 回議事録 (案) の内容を確認し、原案を承認した。

#### 2. メールニュース登録者について (事務局)

- ・ 現状の登録者数 3500 名 (2010 年 11 月現在)。前回委員会 (8 月) より約 300 名増。
- ・ 診断士講習会において登録案内を配布したため、前回から大きく増加した。

#### 3. JCI 発行情の電子公開に関する意見交換会の報告 (中村委員長、資料 44-2)

- ・ 中村委員長より、意見交換会の報告がされた。主な報告事項は以下の通り。当日の出席者は、各発行情の編集委員長と事務局、ならびに中村委員長であった。配付資料として、会誌コンクリート工学、コンクリート工学論文集、年次論文集、ACT についての現状、および電子公開後の発行形態、会員／非会員の対応などの方針案が示された。議論の結果、電子公開について、各委員長は賛成であった。ただし、いくつか検討事項があるため、それらについては各委員会で審議し、次回意見交換会 (1/31) においてその結果を報告することとなった。
- ・ 電子情報化委員会としては、次回意見交換会前に各編集委員会で審議できるよう、電子公開後の発行形態についてのメリット、デメリット等を含め、検討結果を提案する必要がある。その資料を作成することとなった。なお、会誌編集運営小委員会 12/6 には三木幹事が出席し、資料提出、提案する。
- ・ 参考として、コンクリート工学論文集は年 3 回印刷＋送料で年間約 600 万円、ACT は印刷＋送料で年間 360 万円を支出しているとのこと。
- ・ 年次論文集について、電子公開の時期を発行後、会員 1 年、一般 3 年とすることが決まって

いる（2010年8月理事会にて承認）。なお、現在は発行後5年で一般公開している。

- ACTは無料化の方針で進める予定であり、発行後即電子公開することについては前向きである。インパクトファクターが発行後1年の参考文献引用数として算出されるため、1年有料では不利となることも無料公開とすることの一因のようである。
4. 各検索サイトの特徴（三木幹事、資料44-3-1～3、44-4）
- 三木幹事より、資料説明がされた。特に、資料44-3-3にはJ-STAGE、Journal@rchiveとCiNiiの違いが示されており、その内容について確認した。
  - JSTが運営するJournal@rchiveでは既発行分を公開し、J-stageでは今後発行分を公開するといったように期間を分けて登録することができる。また、会員専用とするためには、ユーザ名、パスワードにより制限付で管理することができる。ダム工学会の会誌が参考となる。
  - カラー原稿はJ-stage、Journal@rchiveでは対応している。一方、CiNiiは白黒のみである。
  - 費用について、JCI独自システム構築には約600万円が必要であり、同システムを用いた定期更新には会誌（25記事分）で約4万円程度必要となる。一方、CiNiiでは過去分、今後の更新分いずれも無料である。JST関連では過去分はJournal@rchiveとして無料搭載できる。今後の更新分はJ-stageで公開するが、そこに必要情報を入力するために1件あたり1万円が必要となる。年次論文集のように掲載数が多くなると多額の費用を要することになる。
  - 以上を鑑みて、会誌については、①発行形態は冊子版と電子版とし、②会員1年後、非会員3年後に公開する、③既発行分はJournal@rchive（最近の記事をPDFで保存しているため、そのファイルを活用する）、今後の発行分はJ-stageで公開することを原案とする。以上をまとめ、会誌編集委員会に向けた提案書を三木が作成することとなった。ただし、ユーザ名、パスワードの管理、ならびにその発送方法については、継続検討していく。
  - 年次論文集について、CD版+電子版とした場合、必要な費用、作業工程などを含め、今後も継続して検討することとなった。
5. コンクリート工学論文集の会員専用HPにおける公開（梶山委員、資料44-5）
- 梶山委員作成資料を基に、三木幹事より資料説明がされた。各検索サイトの特徴を踏まえ、電子情報化委員会として、コンクリート工学論文集について以下のような方針を提案する。（提案文は三木幹事が作成する）
    - ① 発行形態は、冊子版は廃止、電子版のみとする。
    - ② 公開時期は、会員は発行後できるだけ早期に、非会員（一般向け）は発行後1年とする。
    - ③ 既発行の論文集はJournal@rchiveにて公開し、今後発行する論文集はJ-stageにて公開する。ただし、既発行の論文集は紙ベースで原稿提出されているため、Journal@rchiveには冊子を送付し、JSTにて本文PDF化してもらう必要がある。
  - 検討項目は、①ユーザ名、パスワードの管理、②その送付方法について、等がある。会員全体で1つのパスワードで管理可能か（会員の入退会数が多く、管理が煩雑となるため）、各会員別個のユーザ名、パスワードの場合、それらを会員への通知する際に会員専用HPを活用できるか等については至急検討する必要がある。（担当：八十島委員）
  - 確認が必要な事項は、①掲載可能なファイル容量、②冊子版PDFにおける図、写真などのカラー化の可否、等がある。（担当：三木幹事）

6. 委員会報告書の会員専用 HP における公開（田嶋委員、資料 44-6）

- ・ 田嶋委員より、資料説明がされた。主な内容は以下の通り。
- ・ 委員会報告書は販売中のものと、完売したものがある。2001 年以降の報告書が HP に約 30 冊リストアップされている。事務局より、完売したものはその都度リストから外しているとの報告があった。おおむね 10 年経過した報告書は販売されていない。
- ・ 公開方法としては、例えば 10 年経過したものを会員専用 HP にて公開し、形式は PDF とすることが挙げられる。事務局より、2005 年以降の報告書は PDF 化して保管しているとの報告があった。
- ・ 刊行より 10 年経過せずに完売した報告書や販売中の報告書の取り扱いについては検討が必須である。研究委員会 HP を活用することも可能である。また、セキュリティ設定、データ管理方法などについては検討する必要がある。
- ・ 会員専用 HP 活用等、具体的作業をブラッシュアップしていく。（担当：田嶋委員）

7. 次回日程

- ・ 次回は、2011 年 2 月 14 日（月）15：00 から、JCI 会議室にて実施する。

以上